

ことしの夏の特別展

相模川流域の横穴墓

夏期特別展「相模川流域の横穴墓」

会期 昭和60年7月20日から8月30日まで
会場 博物館特別展示室

古代の墓制の一つとして、古墳時代後期（AD 500年）以降になると、従来の盛土による古墳の他に、山の斜面に横穴を掘った横穴墓が爆発的に造られるようになります。

この横穴墓は横穴式石室をもつた古墳と内部構造が非常に類似しています。横穴石室は石室内部を「黄泉国」と想定し、現世を再現する葬送観念にもとづいて構築されたと考えられており、横穴墓も、横穴式石室を媒体として、古代葬送観念と墓制構造を横穴構築にとり入れた墓制の一形態と考えられています。

▼ 遺体埋葬状況を再現 (万田熊ノ台横穴)



▲ 群をなし数段にわたって構築されている。

(万田八重久保横穴)



横穴墓は北海道、四国を除いた各地方に造られており、関東地方でも埼玉県、神奈川県、千葉県、東京都に広く分布しています。神奈川県内でも特に大磯丘陵上には全国的にもまれに見る密集地として、早くから学界に周知されています。今回の特別展は最近の調査によって明らかになった熊ノ台、八重久保、宮ノ入の各横穴から出土した資料を中心に、相模川流域の横穴墓の様相を探ります。

♪♪6月の行事♪♪

1	土	プラネタリウム、古文書講読会
2	日	プラネタリウム、自然観察会 地層観察会
3	月	(休館日)
4	火	
5	水	
6	木	全館くん蒸のため休館
7	金	
8	土	土曜観察会、石仏を調べる会(館外)
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	プラネタリウム、古文書講読会
16	日	プラネタリウム、地層観察会
17	月	(休館日)
18	火	
19	水	
20	木	デッサン教室 プラネタリウム幼稚園団体 (7月11日までの、火水木曜日)
21	金	デッサン教室
22	土	プラネタリウム、土曜観察会 石仏を調べる会
23	日	プラネタリウム
24	月	(休館日)
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	プラネタリウム
30	日	(休館日)

プラネタリウム

今月のテーマ「星座の中の太陽」

同じように夜空を見上げても、季節によって見える星座が変わるのはなぜでしょう。太陽が星座の中に見えている、ちょっとふしぎな光景を眺めながら考えます。

(6月15日～7月14日)

投影日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土曜日	朝9時より 第1回、第2回の券を同時発売する	第1回	14:00
		第2回	15:30
日曜日	朝9時より 第1回、第2回の券を同時発売する	第1回	11:00
		第2回	14:00
火曜日		学校専用	
水曜・木曜日		学校・団体専用	

●観覧料 1人 100円

●所要時間 1回 45分

●定員 128人

○ようちえん向け投影

6月20日～7月11日の金曜を除く平日に、ようちえん団体向けのプラネタリウム投影をします。観覧の予約とお問い合わせは博物館管理係まで

~~~~休館のお知らせ~~~~

博物館は、6月4日～14日の間、全館くんじょう(ガスによる殺虫消毒)をするために休館します。期間中はご迷惑をおかけしますが、ご了承下さい。

おわび

先月号で、いん石の寄贈者に、「横川島雄氏」とあるのは、「横川富雄氏」の誤りでした。
おわびとともに、訂正させていただきます。



★☆行事案内☆★

●寄贈品コーナー「火山の活動」

期間 6月15日～7月30日

内容 三宅島などの火山の活動と、溶岩、火山弾、火山灰などの噴出物について展示します。

●自然観察入門講座「貝化石を調べよう」

二宮層と大磯層の貝化石を調べます。

日時 7月24、25、27日 9時～16時
(雨天中止)

場所 大磯町虫窓、大磯町西小磯、博物館

対象 小学校4年生以上

申し込み 7月10日までに、往復はがきで博物館へ。申し込み多数の場合は、抽選により30名まで。

●星を見る会「惑星と月を見よう」

上弦すぎの月や、土星などを、望遠鏡で眺めましょう。

日時 7月26日(金)18時30分～20時

場所 博物館科学教室、屋上

参加自由。当日科学教室にお集まり下さい。

●サマーセミナー

2泊3日で土屋地区の自然や人々の生活を観察します。

期間 8月7～9日(水～金)2泊3日

場所 土屋「七国荘」

対象 小学校5年～中学校3年の男女

定員 30名(多数の場合は抽選)

参加費 1人5,000円(食費・宿泊費等)

申し込み 参加希望の方は、60円切手を同封の上、「サマーセミナー案内書希望」と明記して、博物館までお申し込み下さい。案内書は博物館受付でも配布します。

案内書をお読みの上、7月8日までにお申し込み下さい。

●体験学習「麦から細工」

麦からを使って、虫カゴを作ります。

日時 7月25日(木)

場所 博物館科学教室

申し込み 往復はがきで、7月13日までに博物館へ。申し込み多数の場合は、抽選により40名まで。

●博物館の新刊図書

ご希望の方は、博物館受付まで。

ガイドブック「平塚の遺跡」

市内にある遺跡のガイドです。持ち歩きに便利なB6版。500円

平塚市博物館年報第8号

550円

平塚市博物館研究報告

「自然と文化」第8号 650円

平塚市博物館資料No.31

「湘南植物誌I—双子葉植物 合弁花類—」
800円

平塚市博物館資料No.32

「大磯丘陵の地質3」
—平塚市上吉沢産ナウマン象化石—

900円

6. 幕末・維新

嘉永六年（1853年）、ペリーの浦賀来航は、幕府滅亡の直接的な契機になったとさえいわれています。

ここ平塚市域の村々も、来航・開国によるさまざまな影響を強く受ける事になります。天保以来、村方困窮の状態は、引き続き村々を被り、村をあげて、村費節約・儉約を申し合せ、窮状に対処しようとします。たとえば、丸島村、安政二年（1855年）の「議定書」では、村寄合の際の昼飯、村役人の江戸出府時の費用削減を策し、広川村、同年の「儉約規定帳」では、祝儀・不祝儀を手軽に取り行うこと、衣服は華美にならないようにすることなど村内や村民相互の具体的な儉約法を19か条にわたり取り決めています。しかし、こうした取り決めがあるにもかかわらず、当時は、生活苦からか、野荒しといわれる畠作物の泥棒が横行し、各村を悩まします。また、浮浪人、その他怪しい風体の者達が村々を徘徊し、時に金品をねだり歩くというような事も起ってきます。北金目村、慶応四年（1868年）の「規定連名帳」では、野荒し対策として、怪しい者を村内一同で入れて決め、「村払い」とする事などを決め、午後10時以後の夜間外出はさけることとしています。西海地村、同年の「議定書」は、怪しき風体の者が村内に入り込んだ時、盤木・半鐘、さらには宮梵鐘を突いて知らせ、人々を集めることの取り決めを行っています。

また、異国船の来航は、非常事態に備え、将軍を守るという名目で、各村々の領主である旗本は、手薄な武器を新たに用意するため、「武備金、軍用金」と称する入用金を村に課したり、家財道具や家族を知行地（支配する村）へ疎開させたりする者も現われるしまつです。文久三年（1863年）三月、将軍家茂の上洛、この供奉を命じられた飯嶋村領主、旗本小河氏は、知行所飯嶋村名主を家来の一員として同道させ、御用金まで調達してい

ます。以後、將軍上洛のたびに供奉する旗本は、知行所に対し、たびたびその掛る費用の献金を命じ、村内で調達しかねる場合など、村ぐるみで借金する、いわゆる「郷借り」も各村で頻繁に行なわれています。

慶応三年（1867年）十一月二十日、馬入村、石垣本店の蔵に天照太神宮の御札が降るという事が起ります。これは、この月の初めから、小田原宿、藤沢宿、山西村、柳島村、保土ヶ谷宿、川崎宿と順に御札降りがあった事に続く出来事で、翌二十一日には、宿方家並に天照太神宮の御札が降るという事に発展し、異様な風体をした人々のはだか参り、「ええじゃないか」の狂乱が続きます。この様子を当時の記録は「前代見聞稀成事、參官人多也」（石垣日記）と伝えています。この御札降りとええじゃないかは、翌十二月に入っても、一向下火にならず、大磯宿金毘羅、平塚新宿八幡宮、大山不動尊のはだか参りは、夜毎に続くあります。八幡宮の御輿をかつぎ出し練り歩くという具合でした。そして、こうした様子は、「此節、近村一円、はだか参りいたし申候」とあるように、その狂乱ぶりが、宿内ののみならず、周辺村々をも巻き込んだものへと発展したものであった事がわかります。

（学芸員 土井 浩）

1822年 イギリス船浦賀渡來の図

